

<p>＜ひとことメッセージ＞</p> <p>ミンダナオ国立大学 (MSU) 先住民族特別枠で合格した子どもたち 11 名が、6 月の入学に備えて夏季特別講習を受けています。支援者が決まっていない 5 名について月額 3000 円の奨学金支援者を探しています。支援期間は 1 年でも結構です。よろしくお願いします。</p>	 <p>2005 年 4 月 30 日発行</p>	<p>NPO 法人ピラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS) 227-0033 横浜市青葉区鶴志田町 516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://www.jca.apc.org/~hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ピラーンの医療と自立を支える会</p>
--	--	--

医師のいない村、医療不在のクリニック — フィリピン出稼ぎ事情と山村医療 —

これも将来のフィリピンのためと自分に言い聞かせるようにして、一人の「医師」が「看護師」としてアメリカに旅立ちました。NHK テレビ番組「医師がいなくなる—フィリピン、看護師出稼ぎの陰で」からの 1 コマです。現在フィリピンでは、年間 1 万人を超える看護師がアメリカやイギリス、中東などに渡り、病院や老人ホームで働いています。その中には、実習を受けて看護師資格を取得した医師も数多く含まれています。

日本は自由貿易協定(FTA)に基づき、2006 年からのフィリピン人看護師・介護士受け入れを決めました。3-4 年の日本語習得・実習の後、資格試験を受けて正式就労が許されるという厳しい条件に加えて、年間 200 名という受け入れ枠があるため、フィリピン海外雇用庁は、日本の介護士市場に期待できないとして、アメリカの看護師市場をターゲットに資格を取得することを奨励しているようです。

医師の海外出稼ぎブームはフィリピン医療機関の医師不足という深刻な事態を招いています。しかし、先住民族に関しては余り関係ないようです。医療機関から遠いことと、何より貧しいために、もともと医師にかかることはまれだからです。

私たちの医療支援は、9 年前、ピラーンの人々も医師による治療を受けられるようにと始まりましたが、「PIHS パササンバオ総合医療サービス」(主に貧しいイスラム系民族の村で活動・責任者：看護師ナブサ・サラさん)と一緒に仕事をすることになり、CMB(責任者：助産師ジョジョ・トリポリさん)を通じた支援でも、西欧の医薬品使用偏重をやめて、村内のヘルスワーカー育成による衛生・栄養の知識普及と、民族が伝える薬草活用にも力を入れることにしました。

今年度も引き続きこの方針のもとに、医療衛生予算案を作成しました。5 月 14 日かながわ県民センターで開催を予定している総会(詳細は P5)での議論にご参加下さい。(事務局)

2005 年度 HANDS の主な医療支援事業	2004 年度	2005 年度予算
定期医療支援：CMB 活動地域(ピラーンその他の 12 の村)の住民を対象とする入院・通院及び巡回診療の時の医薬品代支援。その他 6 村での常備薬配置、助産師 1 名ヘルスワーカー数名の給与支援。	月額 \$750 送金実績 90 万円	月額 \$700 年額 88 万円 (¥105/\$)
プロジェクトベース支援事業： ① 保健ボランティア育成と母子保健プロジェクト(FIDR 助成) ② 簡易水道建設と研修による先住民族の生活改善事業(今井記念海外協力基金助成)	50 万円 モロ地域医療推進事業 HANDS 中田資金	① 120 万円 (助成金 1,036 千円) ② 70 万円 (助成金 500 千円)
特別支援(ネフローゼ症候群のレオ君治療費他)： 2000 年 9 月の入院治療以降、定期検査と投薬を続けながら小学校に通っていたレオ君、本年 2 月の検査で抗がん剤治療が必要と分かりました。4 月の 1 回目投与は副作用もなくキアミに戻れたそうです。	0 円(レオ君特別治療資金・前年残金使用)	10 万円
* 収入のうち、会員による医療支援定額寄附収入 *	年 65 万円	年 84 万円